

科目名	アントレプレナー・ファイナンス Entrepreneur Finance		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・火・4 限	春・火・5 限	-	-
担当教員名	唐木 宏一	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>アントレプレナー（起業家）に有用なファイナンス（金融財務）にかかる知識／能力には、一般的なコーポレート・ファイナンス（CF）のそれらとは異なる部分がある。それら異なる部分だけでなく、CF でも起業家に有用な部分を含めた「起業家に求められるファイナンス（にかかる研究）」が、アントレプレナー・ファイナンス（EF）と解される。そのため本講義では、ベンチャー投資等の起業家に独特のファイナンス（資金調達を含めた起業家のためのファイナンス）と、企業評価の手法等 CF の領域においてアントレプレナーに有用なもの（起業家のための CF）双方について、比較的新しい動向や実践的面も含めて学ぶ。コーポレート・ファイナンス I に比し起業家（調達側）寄りの講義である。</p> <p><到達目標></p> <p>急速な成長を射程においたベンチャー起業を目指す者が、上記について事前に全てを完璧に習得することは、そもそも現実的ではない。しかし、起業スタート後に慌てて一から学び直す猶予など許されないのも当然のことである。そうであるならば目指すべきは、「もしも必要に迫られたときには、最小限の努力／コストで適切かつより詳しい情報に接近できるための基礎的素養をもつこと」になる。これを踏まえ、本講義では EF における様々な論点を、講義資料 PPT 等を主たる題材として概観し、それによって基礎的素養を習得するとともに、担当教員の金融実務経験も加味した基礎から応用へのつながり、展開の仕方の“勘どころ”に接近することを目標とする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>科目の性格上、基本的に「座学」の多い講義となる見込みであるが、毎回講義の冒頭で当日テーマにかかる質疑応答と議論の時間を設ける。ほか、9 回目（前後する可能性あり）の講義では、総論的 or 個別企業等の資料を読んだ受講者同士のディスカッションをおこなうか、可能であればゲスト講師（起業家等）を招き（昼夜とも実施想定）、実体験を聴き質疑応答・ディスカッションをおこなうことも検討している。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目：イントロダクション/アントレプレナーとファイナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：本講義で学ぶ予定のもの（起業家に今求められるファイナンスの知識）の確認と概説 <p>2 回目：「金融（与信と受信）」原論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：異時点間での交換とされる「金融」の要点や「信用」について解説と検討 <p>3 回目：起業と資金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：資金の必要事情（特に起業家にとって）について、特に”なに”と”なぜ”を検討 <p>4 回目：初期調達の手法と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：創業期から成長前期の成長ステージにおいてみられる資金調達を考える <p>5 回目：コーポレート・ファイナンス（CF）との相違について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：一般的なコーポレート・ファイナンスについて概説、相違（“なに”と“なぜ”）を検討 				

6 回目：CF でのリスクとリターンの考え方と起業家への適用について

・要点：CF でのリスクとリターンの考え方（CAPM や WACC）の起業家への適用について概説と検討

7 回目：ベンチャーキャピタル（VC）の企業価値評価

・要点：「ベンチャーキャピタル」法による出資時取得株数と株価の計算について概説、検討

8 回目：VC の出資時の要点について

・要点：VC のポートフォリオにとってのリスクとリターンを考える

9 回目：事例検討

・要点：アーリー期企業の資金調達についての事例を検討

10 回目：リアルな資金調達の説明（出資）

・要点：出資（する/受ける）ときの要点について検討と議論

11 回目：リアルな資金調達の説明（負債）

・要点：負債調達（借入と預り金、カネを出す/借りる）ときの手法と要点について検討と議論

12 回目：クラウドファンディングの論点（消費（物品等と交換）タイプ）

・要点：カネで返さないタイプのクラウドファンディング、出す側と受ける側の要点について

13 回目：クラウドファンディングの論点（金融（金銭の異時点間交換）タイプ）

・要点：カネで返すタイプのクラウドファンディング、出す側と受ける側の要点について

14 回目：暗号資産とブロックチェーン

・要点：暗号資産とそれを支える技術、それらの課題と応用可能性について

15 回目：総括

・要点：全体のレビューと意見交換

<講義の進め方>

基本的には PPT と教科書、資料を参照しつつ進め、関連する今日的な話題についても触れていく。
方法としては講義を中心とするが、可能であれば、チームを構築しチームでの討議と、そのクラスへの報告を織り交ぜる。時間中の学生からの質問、意見はいつでも受け付ける。
※疑問はあとで質問しようとせず、その場で尋ねること。

<事前事後学修内容>

事前に Teams 等にアップする講師作成の講義資料と、指示する範囲の教科書や資料を必ず 1 回は読んだうえで（精読までは求めない）、当日のテーマについて事前に疑問点等を明確にしておくこと。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

『金融機能による社会的課題の解決』岩坂、唐木著、白桃書房、2020 年 ※大学図書館に蔵書あり
ほか、必要に応じ講義の Teams 等を通じ配布する。

<参考書>

起業家向けのファイナンスでは：『MBA アントレプレナー・ファイナンス入門』忽那、山本、上林編著、中央経済社、2013 年、『アントレプレナー・ファイナンス』スミス&スミス著、山本、岸本、忽那監訳、中央経済社、2004 年や、『起業のファイナンス』磯崎哲也、日本実業出版社、2015 年 等
コーポレート・ファイナンスでは：『コーポレート・ファイナンス 第 10 版 上』ブリーリー、マ

イヤーズ、アレン、日経 BP 社、2014 年や、『日本のエクイティファイナンス』鈴木健嗣著、中央経済社、2017 年 等

ほか、必要に応じ指示する。

<成績評価方法>

レポート（期中 3 回程度実施の予定）、講義への参加（討議への貢献度等）の度合いを 7 : 3 の比率にて評価する。欠席 6 回以上は成績評価しない。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

レポート提出時にコメントフィードバックする。ほか、Teams 等にて逐次実施予定。

※早めに提出されたレポートには、必要に応じて添削を実施予定。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

火曜 6 限。まず e-mail で連絡すること。左記指定時間以外でも時間を確保することがある。

<その他>

レポートや講義（6 回目講義では散布図・近似直線などを利用）でエクセルを使用する。